

# 日本医学図書館協会の 診療ガイドライン作成支援事業 に参加して

奈良県立医科大学附属図書館  
鈴木 孝明



2010.10.25

# EBMの定義



入手可能で最良の科学的根拠を把握した上で、個々の患者に特有の臨床状況と価値観に配慮した医療を行うための一連の行動指針

「EBM実践ガイド」福井次矢編，医学書院，1999

# EBMのステップ



臨床疑問の定式化

(クリニカルクエスチョンの作成)

根拠となる情報の収集(文献検索)

検索結果の批判的吟味

(正確さや妥当性, 有用性の評価・検討)

実際の臨床への応用

～ の過程を評価し, 次へ向けての改善  
を行い へ戻る

医学図書館. 2009;56(4):289-96.

# 文献検索のニーズ



EBMの手法に基づいた診療ガイドライン作成の動き  
厚労省主導(23疾患)

各学会が独自に作成(数百?)



ステップ を専門職(図書館員)に依頼  
個人 (東邦大学 山口氏)

組織 (医図協)

# 文献検索業務の組織化(2008年度～)



特定非営利活動法人日本医学図書館協会

受託事業委員会 委員長1名

診療ガイドラインワーキンググループ

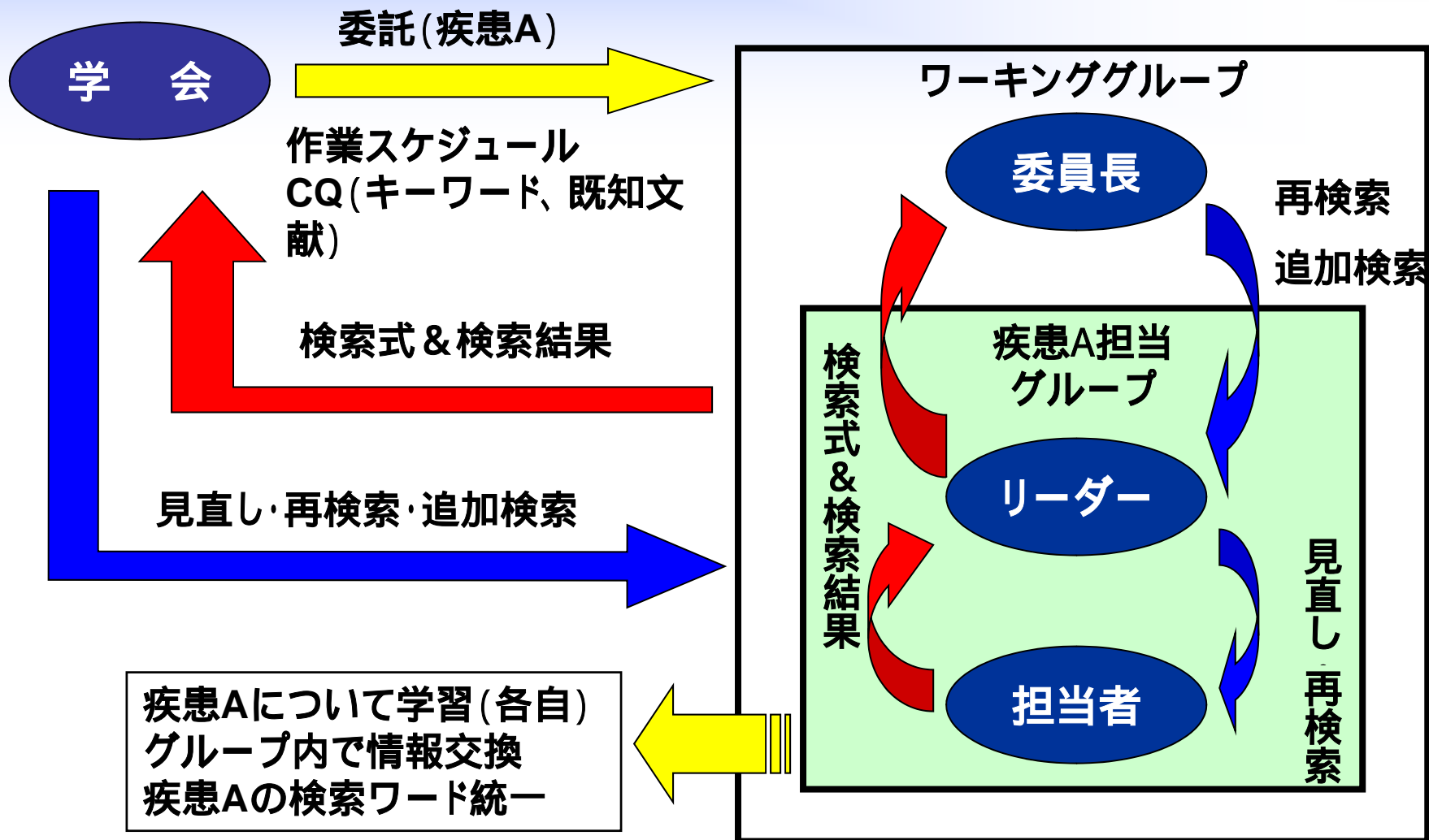
委員長1名

委員 機関12館、個人7名

(要覧2010より)



# 検索作業の流れ



医学図書館. 2009;56(4):297-300.

# 作業内容



## 使用データベース

PubMed、医中誌、[JMED]、The Cochrane Library 調査範囲

初版 1983年～

改訂 前版の検索最終年～

言語 = 日本語、英語

チェックタグ = ヒト (Pre段階は除外される)

# 検索方針



学会の作成委員会により方針が異なる。

- ・網羅的検索が基本
- ・研究デザインで絞る
- ・症例報告を含める
- ・会議録除く(日本語)
- ・シソーラス用語で絞る
- ・上位概念を含める

検索件数が多すぎたり少なすぎたりした時

- ・CQの細分、合併を検討してもらう



# 検索式の提出方法



## JMLA所定様式 (Wordファイル)

- ・1CQ、1データベースごとに1つのファイルにまとめる。  
PubMedと医中誌で検索すれば、1CQに対して2つのWordファイルを作成することになる。
- ・検索回数、日付、件数を記載する。
- ・検索式は、データベースの検索履歴を貼り付ける。

# 検索結果の提出方法



JMLA所定文献管理ツール「BunKan」にまとめる。  
(Excelのマクロを利用)

- ・検索式と同様に1CQ、1データベースごとに1つのファイルにまとめる。
- ・結果をテキストファイルでダウンロードして「BunKan」へ読み込む。
- ・要望により、テキストファイルのまま提出する場合もある。

# 問題点



- 忙しい時に限って依頼がある。  
(受託してからCQを受け取るまでのタイムラグが大きい)
- 期限がタイト。  
(1ヶ月以内が多い)
- 検索担当者のスキルがまちまち。  
(再検索の頻度が多くなる)

# メリット



- データベースの使用法を極められる。
- 代行検索や検索指導に自信を持てる。
- 疾患関連の医学用語 (MeSH用語) を習得できる。
- 疾患関連の解剖生理、病態生理、診断・治療法についてアウトラインがつかめる。
- 成果が形になるので、図書館の実績として大学当局へアピールできる。
- 学内に作成委員会メンバーがいれば、図書館の専門性を認めてもらえる。
- 社会に貢献しているという**充実感**が持てる。
- 刊行されたガイドラインを手にした時、**恍惚感**を味わえる。

# 鈴木作業暦



- 平成18年 肝硬変(50CQ担当) 刊行済み
- 平成20年 多発性硬化症(全件担当) 校正済み
- 平成21年 腰部脊柱管狭窄症(日本語DB[医中誌、JMED]担当) 作成委員会出席 まとめ段階
- 平成21年 腎癌改訂(リーダー) 提出済み
- 平成21年 頬骨骨折(リーダー) 提出済み
- 平成22年 尿路結石症(リーダー) 提出済み(1題見直し待ち)
- 平成22年 上顎骨骨折(リーダー) 提出済み
- 平成22年 前立腺癌改訂(リーダー予定) CQ待ち

# 今後の展開



- ヘルスサイエンス情報専門員ブランドの認知度アップ
- 診療ガイドライン以外の情報検索ニーズの掘り起こし  
(コクランレビューなど)
- 代行検索の復活(研究者の手間を省く)
- 情報リテラシー(文献検索・管理・評価)教育のカリキュラム  
化推進
- 文献評価スキルの向上(EBMステップ への参画)
- 各種EBMツールの習得・評価・提供
  1. 以前からあるツールのトピック数が増えた。
  2. 新しいツールが開発された。(鑑別診断支援 Best Practice [BMJ])
  3. 情報検索データベースにエビデンスレベルで絞り込めるオプションが追加された。

# 奇しくも10年前



平成12年度近畿地区シンポジウム (2000.11.16)

「EBM推進への図書館の役割について考える」

1. 臨床医の真のニーズの把握
2. エビデンスレベルの高い情報源の収集・提供
3. 地域社会(開業医、患者とその家族、地域住民)への開放
4. 開放に伴うサービス多様化への対応
5. ハンドサーチへの参加(日本人の臨床試験情報収集)
6. 情報リテラシー教育への参加

医学図書館. 2001;48(1):108-11.

10年たっても



その役割は変わっていない。

共にがんばりましょう！